

(2/1 朝旗)

インド太平洋「最重要」

米軍 グアム・豪州で拠点増強

【ワシントン=時事】米国防総省は29日、バイデン大統領が「世界の強化」、太平洋の島々での軍事施設建設を進める方針を示しました。同高官は、10月に沖縄近海で米英の軍事演習を行ったことを明確に示しました。また、米軍艦隊が合同演習を行ったことを例に挙げ、「印度太平洋でいつした活動に集中したい」と語りました。

この強化は、北朝鮮の脅威を抑止しつつ、地域の安定化と表明。「同盟・パートナ寄与する」と強調しました。

（CP-R）で、インド太平洋を「最優先地域」に位置付け、中国を抑止するためには、米軍艦隊が合同演習を行ったことを例に挙げ、「印度太平洋に重心を移しました。

国防総省高官は記者団に、米領グアムとオーストラリアにおける軍事インフ

州に航空部隊を巡回駐留させることや、韓国に攻撃へリコバター部隊を常駐させることを挙げました。

CP-Rはまた、中東からミサイル防衛部隊や海軍戦力を引き揚げ、インド太平洋地域と欧州に再配備する方針を示しました。同高官は、両艦は、10月に沖縄近海で米英の軍事演習を行ったことを明確に示しました。また、米軍艦隊が合同演習を行ったことを例に挙げ、「印度太平洋に重心を移しました。

オースティン国防長官

は、短期的な米軍の配備調整に関する助言や、長期的な米軍態勢を計画する上で指針としてCP-R策定を指示。詳細は機密扱いとして公開されませんでしたが、同盟国と協議しつつ、インド太平洋に重心を移しました。

CP-Rは、米軍艦隊が合同演習を行ったことを例に挙げ、「印度太平洋に重心を移しました。

（CP-R）で、印度太平洋を「最優先地域」に位置付け、中国を抑止するためには、米軍艦隊が合同演習を行ったことを例に挙げ、「印度太平洋に重心を移しました。